

Bangladesh 国際交流ウィーク

Bangladesh & 日本共同企画展示会

2021.12/16 (木) ~ 12/21 (火) 9:30-18:00

(金曜・土曜は20:00、最終日は16:00まで)

入場
無料

福岡アジア美術館 交流ギャラリー

(福岡市博多区下川端3-1博多リパレンセンタービル8階)

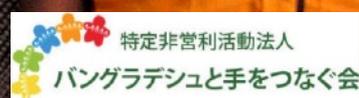
■リバイバル展 行事内容

- ・12/16 (木) 14:00-15:00 開会式
- ・12/18 (土) 14:00-17:00 講演
Bangladeshと手をつなぐ会32年の歩み (二ノ坂 保喜)
Bangladesh独立50周年を迎えて (ラフマン・モクレスール)
Bangladesh伝統工芸とSDGs (Faisal Huda)
- ・12/19 (日) 14:00-17:00 Bangladesh独立50周年記念式典

●共催：特定非営利活動法人 Bangladeshと手をつなぐ会
リバイバル展実行委員会

●後援：福岡市、(公財)福岡市文化芸術振興財団

●助成：(公財)福岡県国際交流センター支援事業
(公財)西日本国際財団 国際化助成事業





2014ジャパニ小学校



2020料理教室



2017看護学校開校・訪問



1988ジャパニ小学校建設

1986年、バングラデシュ人の九大留学生と女性牧師が出会いました。

彼から「バングラデシュの小学校は、洪水や台風ですぐ壊れてしまう。壊れない丈夫な学校を作りたい」と聞き、寄付を募ったり、募金活動をしてジャパニ小学校を建てたのがこの会の始まりです。そして、1989年『バングラデシュと手をつなぐ会』を発足しました。

保健医療・教育・生活向上を目的に、現地のNGO法人シヨンドニ・シヨンスタとともに活動を続け、今年で設立32年になります。

現地活動として、ジャパニ小学校・看護学校・シヨンドニ病院などの支援・現地訪問を行い、また国内活動としてはチャリティバザーやコンサートの開催・会報誌ミロンの発行、バングラデシュ料理教室等を行っています。

秋風にかりもれで
「カイ回集いの報告」

「バングラデシュに小学校をつくる会」第一回の集会在9月26日(土)午後キリスト教会館で開かれました。参加者は17名。バングラデシュからは、九大教育学部で学んでいる先生と、7才のシャヒーン君、工学部の下さんと娘のウクンちゃん。日本からは、小学生、高校生、主婦、教師など。カラムディに学校を創るために少しでも手伝えたらという思いをもつくわが一堂に会しました。

会はずまずビデオ「バングラディ飢餓」と、愛は地球を救うの鑑賞から始まりました。カメラはバングラの自然、カルカッタやダッカの人々の暮ら

「ミロン」
NO.1
62.10.27

「ミロン」というのは、バングラディ語で「太陽」という意味です。いくつもの候補の中から、みんが選みました。

しを追い、飢餓によって精神の正常さを失った老人たち。野菜がしなびるように死んでいく子供たちの姿を静かに鞆に映し続け、この黄金の大地バングラから奪ったのは、先進国のわたしたちだ。ということに銘じようとしめくったものでした。

その後感想も混じえ、その自己紹介、最後にRさんが流暢な日本語でバングラディの歴史と民族、その暮らしについて話して下さり、食べ物と生き生きとした姿を見せている人を生き生きとさせることはできる。しかし、学校を創ることは、次の世代と団の未来に役立つと結ばれました。

会場にはバングラデシュの民芸



1994西新チャリティバザー



2011現地訪問



1996現地訪問時診察



2016さわらチャリティバザー

会報誌創刊号1987年（現在の会報誌はミロンへ改称）

リバイバル展実行委員会からのメッセージ

バングラデシュは、今年独立50周年にあたり新たな挑戦の場として、この展示会を企画しました。リバイバル展は、伝統的な織物や建物とともに文化交流を大切にし、女性の自立のための持続可能なファッションを目指しています。



■ 展示内容

【リバイバル展実行委員会】

- ・バングラデシュ伝統工芸とSDGs
- ・持続可能なファッションとは？
- ・ベンガル地方の伝統刺繍と服や布地
- ・バングラデシュ独立の歴史

【バングラデシュと手をつなぐ会】

- ・バングラデシュって、どんな国？(Q&A)
- ・カラムディ村との32年の歩み(年表)
- ・ミロンでたどる国際交流(会報誌1-149号)
- ・現地訪問、チャリティ活動の様子(写真、ビデオ)
- ・現地の風景(絵画)

■ 問い合わせ先：バングラデシュと手をつなぐ会事務局
info@tewotunagukai.com ☎ 092-407-7701

